

NETWORK

博物館ってなんだ シリーズ④

こんな博物館にいきいたいな 2

九州散歩①

水のつながり、ゆたかな大地～春の筑後川流域をぶらぶら 4

快適で地球にやさしい、これからの住まい・まちづくり 6

図書館には“ぜんざい”がよく似合う～伊万里市民図書館 7

都市住民参加型の農地の多面的利用を！ 11

地域計画のための一知半解事典⑦

九州はパチンコが盛ん？ 12

NO. 27 1997.5

(株)九州地域計画研究所

見・聞・食

市街地の中の自立した家ー甘木の環境共生住宅 12

参加者が多く、あっけなく終わった植林作業 13

近況

中高年女性に大人気ートマト狩り日帰りバスツアーに参加 15

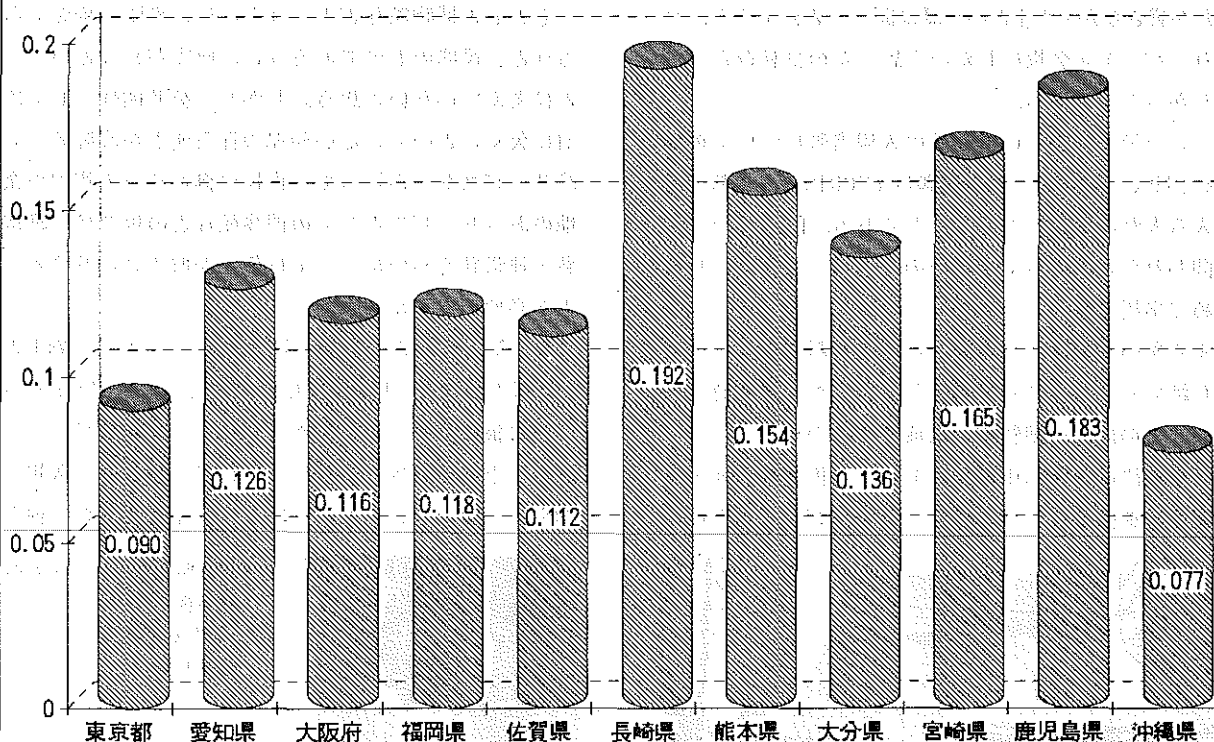
三内丸山を訪ねて 15

所員近況 16

広告

第5回よかネット・パーティなど 19

●九州はパチンコが盛ん？ (20歳以上県民1人当たり娯楽業収入/20歳以上県民1人当たり所得)



パチンコが30兆円産業だと言われたのは、平成6年の「サービス業基本調査報告」の速報が出てからである。その前の調査は平成元年で、その時は15兆円となっていた。ところで、九州はパチンコ産業にとってよいところかどうか、が気になった。結論はなかなか有望な土地柄らしい。上図はパチンコそのもののデータではなく、それを含む娯楽業の売上高と20歳以上人口、1人当たり県民所得の3点で比較したものである。20歳以上人口1人当たり娯楽業の売り上げは本文の「地域計画のための一知半解事典」(12頁)を見ていただきたい。

博物館ってなんだ シリーズ④

こんな博物館にいききたいな

—知恵と情報の生け作りに出会える博物館を—

●小さい博物館の生きる道は？

「博多町家」という小さなミュージアムがある。博多ブランドの勧進元みたいな「櫛田神社」の近くの、博多町家の中心の場所となる店屋町に、小意気な建物が建っている。

ここを借りてパーティができないかと思った。毎年やっている「全国のうまいものを食べ、飲みながら、日頃のつきあいの外側の人とも交流する」という目的の“よかネットパーティ”の会場にという思惑である。どうも、「民間の会社が、公共の建物を借りて飲み食いを使うとは不遜な考えだ」というようなことが公共団体や学者の認識らしく、借りられそうになかった。しかし、「外国の企業がここをパーティに使いたいと行って来たが貸さなかった」という話は聞くことができた。つまり、パーティ会場にしたいと思ったのは私ひとりではなかったのである。

そこで逆に、小さい博物館の入場者数についての悩みを、聞くことになった。問題は「200円の入場料の故に入る人がいない」ということである。「どう思うか」と問われたが、入っていないので返事ができず、日を改めて出掛けた。

まず驚いたのは、入口の「こちら有料です」という張り紙であった。苦心の対応だと思うが、違和感は大い。この原因は博物館の構成そのものにある。

この施設は、明治中期に立てられた博多織々元の工場兼住居を移築した“町家棟”、“みやげ処”、博多の明

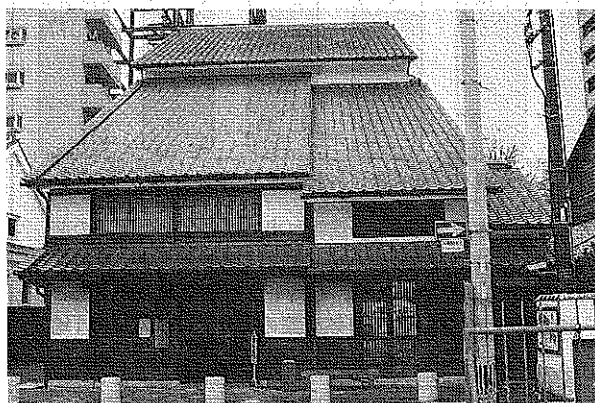
治・大正を紹介する“展示棟”の3棟があって、展示棟のみが200円也の有料となっている。町家という点からみると、本来本命をみられる町家棟が無料となっている。この辺の状況から「こちら有料です」という張り紙が必要になったのだろう。

200円也の展示館は、1階で祇園山笠の映画が上映されており、2階では町の雑貨屋の店先と座敷が再現されていた（おかみさん、亭主、店員、子供、御隠居の人形つき）。映像はよく出来ていた（200円分の価値はあった）が、2階の展示用店舗は、なぜこんな拵え物をつくったのかよくわからない。これで「もう一度いらっしやい」というのは難しいと思う。

●役所だからできる経営方法がある

もともと博物館などというものは、役所の施設であろうと、民間のものであろうと、収支が合うということとは考えていないと思う。しかし、公共団体として絶対に欠くことのできない幼児の保育所とか高齢者の介護サービスなどと違って、市民の側からみて選択の余地のあるサービスとしての博物館などの場合は、維持費・運営費ぐらいについては何とか収支合わせることが必要だと考えられる。

まず第一に小さい点から述べると、「こちら有料」という張り紙より、「御代は見てのお帰りに¥200」ぐらいの看板の方が、抵抗感が少ない。集金箱だけ置いておくことにすれば、管理の手間ははぶけるし、入場も増えるに違いない。改善の第二は、中に入ったら何が



左：博多町家ミュージアムの展示棟

右：「こちら有料です」の張り紙

あるのかがわかる展示案内を、入口付近に設けるべきだろう。第三の点は最も大切なことで、食べもの抜きに博多の町家の暮らしの追体験は無理ではないかということである。町家棟を博多料理の店にすれば、何度もリピート客が来るだろうと思う。もし火を使うことに危惧があるなら、調理は別棟にして、渡り廊下で運び、座敷や見世の間を食事の場所にすればいい（具体の考えはあるが省く）。役所の施設ということで家賃を低くおさえて経営しやすいようにすることは可能であろう。

似た例をあげると、矢部村では「仙人の家」で郷土料理が味わえる。上津江村では古い民家で、近所の主婦が4人で民宿兼郷土料理の店をやっている（前号に京都文化博物館の京料理の店についてはふれた）。博多駅で2時間ぐらい余った、といったお客さんはかなり多いに違いない。一寸した博多料理と博多の酒が飲めるなら、足をのぼしてみたいという人々もあるだろう。役所は地域の人々にサービスをし、外の人々に博多を好きになってもらうサービスをするのが本職である。そのためには、民間より楽なソロバンでも良いということになっている。この「役所だからできる」という考え方は、どこの地域でも当てはまることであるが、博多のファンを増やし、地域の活力アップにつながると思う。

●博物館とテーマパーク

「今頃の博物館の入場者の動きはどうか」、「軒並み減っていますよ。昔と違って今は、面白いところがいっぱい増えていますし、テーマパークにも流れていますし。」
テーマパークの経営は、いかに「年1度、リピーターとして来させるか」にあると言われている。そのためには年々投資をし続けて、もう一度行ってみようと思わせる何かを、付け加え続けなければならないとされている。長崎のハウステンボスでも、当初目標の400万人／年に達するために、新たな投資を250億円要したと言われている。宇宙についての学習の場をつくると言われたスペースワールドでも、最大勾配世界一と言われる絶叫マシーンを導入して遊園地色を強め、入場者の増加を図っている。当たり前だと言われればそれまでだが、テーマパークの経営者は顧客の興味をつなぎとめるために不断の努力をしている。博物館の目的は、「……一般大衆の利用に供し、その



町家棟とみやげ処

教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い……」と法律で定められている。一般大衆の興味に応えるという点ではテーマパークと本質的な違いはない、と言ったらお叱りを受けるだろうか。

●固定化したロウ細工でなく、状況の生け作りに出
会いたい
「ミュージアム」という言い方がされている。固定化した陳列だけでなく、来館者に楽しみながら見ていただく博物館という考え方を表した言葉である。先頃テレビで、アメリカのインターネットの紹介をしていた。アメリカに居て“the tale of Genji”を引き出し、その中の源氏絵巻を見たくなったら、“emaki”を引くと、その画面が東京の徳川美術館のインターネットにつながった。つまり徳川美術館が提供している絵巻物の情報を、アメリカのインターネットで見ることができるのである。これを見ながら、博物館がお客様の支持を受けるには大変なことになっているな、と思った。固定化した陳列ではとうてい太刀打ちできない。こうなると「味が好くて、ボリュームたっぷり、新鮮な特色料理」のようなものでないともたない。手間をかけずに「日替わり新鮮メニュー」を提供するにはどうすればよいのか。もうひとつヒントがあった。県警察本部の交通管制システムである。ここでは市内の交通要衝が映し出されていて、カメラの視線を動かして横の方を見たり、ズームで拡大して見たりできる。このシステムとインターネットと博物館の密度の濃い知識とを組み合わせたら「手間をかけずに、日替わり新鮮メニュー」ができるのではないかな。

（仮に私のニードから考えてみたい。栄西（臨済禅の創始者）と茶の流れに興味があるが、

彼の足跡がどうだったのかを知りたい。その通過した都市が今はどうなっているのかを知りたい。そして今は雨が降っているのか、街の人たちは今日どんなものを食べているのかということに興味がある。常に今日と過去をつなぎながら見ることであれば、正に“日替わりメニュー”となる。

このためには中国の各都市の中心などに交通管制と同じカメラを据えつけて、インターネットを組み合わせればいいのではないか。山田長政の事跡を知りたいならば、知識のストックに加えてアユタヤ（タイ）や各地の彼の足跡の今日と見比べればいい。当時の日本の街やこの今日の映像とも見比べると面白い。

栄西については、中国での足跡や事跡、日本の博多の西のはずれの今津の浜・聖福寺などの資料をインターネットやリアルタイムの映像で結ぶことができる。

こうして中国などの現在と過去を知ると、必ずそこへ行きたくなるにちがいない。昔、電話を普及させると「会わなくてもよくなる」と言われたそうだが、結局「一度会いたいな」とか「今度メシ喰おうか」という電話が増えて、出会いの機会も増えたと言われている。人間は少し分かるともっと知りたくなる。博物館にしても同じである。

●ネットワークの強さが博物館の力量になる

もしこんなことが日常茶飯事になったら、どことネットワークが強いか博物館競争の勝負を決めることになる。

九州の「アジア文化交流史博物館」は、九州内の博物館はもとより、文化交流の拠点となった街角、港町（それが埋め立てられていても）やアジア各国の博物館、街角、港町、学問の府となっていた大寺院などとのネットワークを持たなければならない。それは単なる資料としてのネットワークだけでなく、知識の生け作りのような生き生きとした現実を含めたものにしたい。在来知識とリアルタイムの現実が混じるとき、それは日替わりメニューとなる。

日替わりという意味で、テーマパークの絶叫マシンを考えてみたい。この施設は、客の側で「日替わり化」が行われている。つまり、同伴相手が違えば感興は別のものになる。博物館はそこまで客の側で協力してくれないかもしれない。したがってネットワークを強くすることによって組み合わせの多様化で日替わり化を図らねばならないだろう。

ひょっとすると、この程度のことは、博物館を出し抜いてテーマパークが先にやってしまうかもしれない。結局、人間のネットワークをどちらが強く太く多く持っているかが勝負になる時代である。

●博物館の経営問題

もっとも大切な問題だと思うが、まだこの問題に十分取り組んだ話は聞かなかった。そのため伊万里図書館の見学記を別稿で入れてある。そこでは「図書館として市民のためにいくら稼いだか」が問題になっていた。

もうひとつ、直接関係ないようだが、伊丹の第3セクター立の市民ホテルのことを紹介したいと思っている。（次号掲載）。これもプロの人たちに対して「彼らはホテルを作ろうとしてるんですよ」という言葉が示すように「ホテルというもの」ではなく市民の交流の場をつくらうとした物語である。

博物館は市民の知的交流の場でなければならないと思う。知的な遊びは絶叫マシンより長続きするはずである。人間は知的遊びをする動物だから。

（糸乗 貞喜）

九州散歩①

水のつながり、ゆたかな大地

～春の筑後川流域をぶらぶら

今、九州の「元気」の良さといえば、最近ではキャナルシティや福岡ドームなど、街の賑わいで紹介されている。こうした「街の賑わい」は、新しい集客機能の固まりといい換えることが出来るが、一方で、九州の顔は、他に何で表されるのだろうか？

商売柄、九州の様々な場所を歩くことがあるが、食べ物や土地の言い伝え、歴史、言葉、人々の顔立ちなど、その土地ならではのものにたまに出会う。

そこで、このコーナーでは「九州散歩」と称して、これらのうち気になった点や皆様に紹介したいものなどを連載でまとめてみることにしました。

【耳納連山の山麓で、体で春を感じる…田主丸町】

よく知っている大学の先生が、10年ほど前から畑を借りている「T果樹園」に連れていってもらった。場所は筑後川と筑後平野を望む耳納連山の麓。久留米市から30分程車で東に向かったところ。福岡市から1時間

半程である。

果樹園に着いて車を降りた瞬間、久しぶりに体全体で春を感じることができた。

ヒバリの無邪気な歌声と山羊の鳴き声。足下には太いミズがうねうね。プーンと鼻腔を刺激する高菜を干した匂い。果樹の白い花。太陽の陽ざしを天空から感じる事が出来る。

思わず背伸びをしてしまう。背丈の低い草原に囲まれた山麓からは遠く筑後平野が見晴らせる。一面のグリーン絨毯が広がっている。

我々が日頃都会で感じる季節感は、たぶん新聞1面の四季折々のカラー写真1枚で、都合良く頭の中で「感じたことにしている」だけなのかもしれない。

「T果樹園」の主人が長靴、帽子の姿で農作業の手を休めて声をかけてきた。主人は福岡市内で生まれ「(次男か三男だったので)家を追い出されたのが農業を始めたきっかけ」だとか。

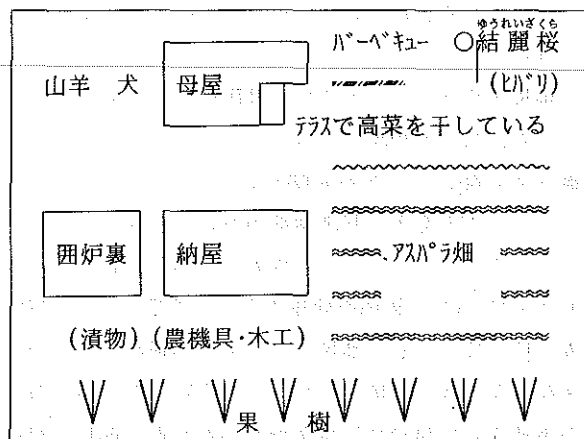
最近、都会からこの農園に遊びにくる人が多く、都会の会社や学校からの申込みもあって、賑やかになったそうである。立ち話をしている次のような話が飛び出した。

○曰く「都会の人がよく農園に遊びにくる。先日はアスパラガスが出来ていたのでワイワイって収穫していった」

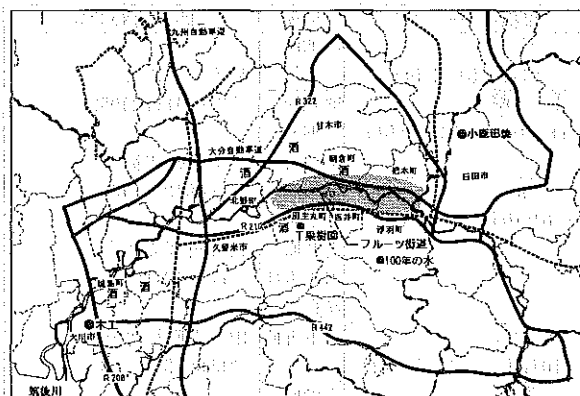
○曰く「ここに来て自分のお嫁さんの喘息が2ヶ月で治った」

○曰く「都会の人は息抜きに農村に来て欲しい。あんな環境で毎日仕事に追われるなんて体が変になる」

○曰く「田舎の人間はもてなしを勉強した方がいい。田舎を楽しむことができる都会人だけに本当の楽し



T果樹園の見取り図



耳納連山山麓のフルーツ街道

みを与えればいい」

○曰く「都会の人は来ててもすぐに帰ろうとする。あわただしいから十分にもてなせないし、来た方も楽しめない」

○曰く「もっとゆっくりしていきなさい。そしてたびたび来なさい。福岡から1時間で来られますから」

実はすぐ帰ろうとして怒られたのは私達であって、その後、コーヒーを戴いていろいろな話をし、高菜漬けを袋一杯おみやげに戴いて満足して帰った。

休耕農地が全国でかなりの数になってしまった一方で、土いじりをしたい都会の人々が増えている。そして、なかなかニーズと資源が合致できる場所がないといわれる中、ここの主人のように、自分で判断して積極的に受け入れを進める方がいる。主人が語っていたことは、都会であれ田舎であれ「自分で面白がって楽しむ」素養のある人が真に豊かな人ということになるだろうか。もてなす側も、もてなされる側も「楽しむ」センスを持ってないと、都会人VS農村人になってしまう。

【100年の熟成期間を経た水…浮羽町】

「うちは水道普及0%ですが、日本の名水に選ばれる泉を2箇所以上持っています。手堀りできれいな水が出るところもあるんです」と語ったのは、同じ耳納連山の麓にある浮羽町の助役さん。

この辺りの土壌は砂礫質で水はけが良く、水が豊富なため、柿、ブドウ、ナシ、桃、茶の栽培に適し、「フルーツ街道」とも呼ばれ、全国出荷されている。観光客に「〇〇狩り」をさせる農園も多い。

耳納連山は阿蘇山系からかなり離れるが、筑後川の水系で、地表に降った水が再び空中の水瓶に戻って、上流の水源地の森に雨となって戻り、森が川を養って、水

果樹(シーズン)	場所	問い合わせ先
イチゴ (4月～5月上旬)	浮羽町	杷木観光協会 TEL0946(62)0620
巨峰 (8月中旬～10月上旬)	杷木町 浮羽町 田主丸町	浮羽町観光協会 TEL09437(7)2111
柿 (10月中旬～12月上旬)	杷木町 浮羽町 吉井町 田主丸町 朝倉町	吉井町観光協会 TEL09437(6)3980
みかん (10月中旬～11月下旬)	田主丸町	田主丸町観光協会 TEL09437(2)4956
梨 (9月中旬～10月下旬)	浮羽町	福岡県朝倉町観光協議会 TEL0946(52)1111
りんご (7月下旬～11月中旬)	浮羽町 田主丸町 朝倉町	

筑後川流域でとれる果物

が川を下っていくという、水の一連の循環システムからみれば、同じ水瓶の器にあると考えてもよい。「阿蘇の方で降った水が100年かけて地表に現れている」というのである。100年という「水の熟成期間」(変な言い方だが)が科学的にみて、最も味が良く理想的だという。現にこの町の水は都会に出荷されており、福岡市百道のシーホークホテルの各部屋の冷蔵庫に収まっているミネラルウォーターはこの町の水だという。

川から天空の水瓶への水の循環などは地球物理学的な話であるが、豊かな水を持って活用することが、地域の人々の生活の豊かさに繋がるというのは、大昔も今もそう変わらない。水の豊かな大地で新鮮な食べ物を採って生活していけば、まず変な死に方はしないだろう。

※今回は、水をテーマに捉えてみましたが、これから九州の魅力をお伝えしていきたいと思います。次回、『筑後川流域をぶらぶら』のつづきで、川と地域産業の関わりについてご報告いたします。

快適で地球にやさしい

これからの住まい・まちづくり

環境共生住宅シンポジウム

3月26日(水)、アクロス福岡で「快適で、地球にやさしい、これからの住まいづくり」として、環境共生住宅のシンポジウムが開かれました。主催は(財)福岡県建築住宅センター、福岡県環境共生住宅開発研究

会で、当社はその研究会のお手伝いをしています。

●環境共生住宅はひとつの運動論

まず、福岡県建築都市部の社本部長よりシヨウトスピッチとして、環境問題の基本的な視点や考え方についての話がありました。

続いて、環境共生住宅に関して国内でも第一人者といわれる(株)岩村アトリエ代表の岩村和夫氏に基調講演をして頂きました。基調講演の主な内容は以下の通りです。

- ・平成2年に地球温暖化防止行動計画が政府で採択されたのを受け、具体的な行動計画として、建設省では「環境共生住宅」を打ち出した。
- ・名称は「カタカナはそろそろやめよう」ということで、東洋的思想も含ませたいということで、漢字にした。
- ・首都圏では戸建て住宅は20年ぐらいで建て替えられており、我々は20年後のゴミを作り続けていることになる。
- ・エネルギー消費は、家電製品など家庭における消費が増えてきている。
- ・規制緩和といわれる中で、この分野だけは規制が強化される方向にある。
- ・環境という言葉の意味は広いが、ここでは生きていくものを取り巻く、それに影響を与えるもの全てを環境と呼ぶ。
- ・環境共生住宅の基本的な要件は、①地球環境の保全(ロー・インパクト)、②周辺環境との親和性(ハイ・コンタクト)、③居住環境の健康・快適性。
- ・建材、工法などが技術の面から開発されてきたが、そこには人間が住むという意識が欠けていた。健康的に住むということを大切にしないといけない。
- ・地域によって、また敷地によって気候などは違うため、モデル設定をして広めようというようなものではない。

・環境共生住宅というのは、計画に当たってのひとつの考え方、運動論である。

●うまく開いて、うまく閉じる

スライドも交えた基調講演のあと、岩村氏をコーディネーターとしてシンポジウムが行われました。パネリストは、(社)福岡県建築士会女性委員長で「花は咲かせ隊」隊長として地域で花いっぱい運動をしている角銅久美子氏、環境共生型住宅の実践に取り組まれた北九州市住宅供給公社事業部長の鍛冶健三郎氏、染織家の築城則子氏、福岡県建築都市部住宅課長の田中淳



150席の会場はほぼ満杯

氏の4人でした。以下シンポジウムの主な内容を紹介します。

- ・「地球にやさしい」はおこがましい感じもする。我々にやさしいという考え方でいいのではないか。
- ・環境に対する個々の技術の蓄積はあるが、総合的にどう使うかという部分がこれから必要。
- ・住宅でアトピーになる話は化学繊維や化学染料が体に悪いという話と似ている。草木染めの染料は薬草と同じもの。飲んで体にいいものを身につけるといふ発想がある。
- ・北九州市の環境共生型集合住宅「マテール穴生」では、断熱でかなり効果があり、年間でエネルギー費5～6万円は節約できたと入居者にも好評だった。建物が50～100年くらい持つものにしないといけない。公庫融資を100年にすれば、みんな考えるのでははないか。
- ・3年間廃屋だった家を借りたが、新しい畳にカビが何度拭いても生えた。近所の方にアルコールで拭くといいと聞いて、やってみると生えなくなった。人の知恵は素晴らしいと感じると同時に、除湿器を買った自分は毒されていると思った。
- ・集合住宅では風通しは大事だが、開放型で作ればプライバシーの問題もある。また、断熱の問題もあるので、自然エネルギーを活用するにはうまく開いてうまく閉じる必要がある。
- ・植物などをつきあわせていこうとすると、気分的、時間的に余裕のある人がコミュニティの中に必要。そういうツブツブの部分で高齢者が頑張ってくれるといい。
- ・高齢者が出ていった空き家では、新しい人が入るとき更地にして、何十年もかけて育ったものがリセッ

トされてしまう。不動産屋は樹木などを生かして売ることにはできないか。

- ・樹木の剪定や掃除などの管理は、落ち葉で焼き芋をするなど、遊び感覚でやらないと自分たちでは続かない。
- ・環境共生住宅は管理面で負担になると考えると普及しない。管理によって自分たちの所の価値が保全され、育てられると考えるといい。（伊藤 聡）

図書館には“ぜんざい”がよく似合う

～伊万里市民図書館～

●とても過激な図書館である

「図書館から、本を使ったまちづくりの風を吹かせて欲しい」

「イベントで集めるだけではダメだ」

「住んでいる人々が知的活力をつけるところが図書館だ」

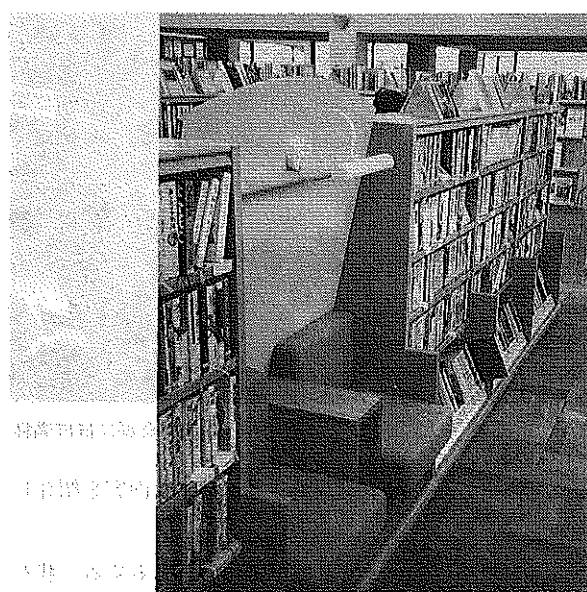
「住んでいる人の知的活力以上のまちはできない」

息をのむ思いがした。これは、私が2時間半ばかり話を聞いて案内してもらった犬塚さんから聞いた、森田前館長の言葉である。伊万里市民図書館が素晴らしいという話は聞いていたので、ついでがあったら見学してみたいと思っていた。森田前館長を存じ上げていたので、こんな過激なコンセプトで図書館づくりを進めた人だということも知らず、森田さんに紹介をお願いした。その結果、案内・説明をして下さったのが犬塚さんという女性であった。少し控え目な感じの大人しい方だが、出てくる言葉はけっこう過激であった。あとでいただいた「とじまかん通信・平成5年10月号」の中から森田さんの言葉を引用しておく。「まちづくりは、にぎやかなイベント（催し）だけでは出来ない。市民の知的活力がまちづくりの大きなカギだ。また情報化時代は地域の経済力や学習意欲によって「文化格差」を生む心配がある。それは経済格差よりも影響が大きいかも知れない。市民が知的活力を身につけ、同時に、市はよそにひけをとらない程度に文化施設を整える努力を傾ける必要がある。図書館は、そうした知的活力をたくわえるために欠かせない生活施設の一つである。しかも行政（市役所）だ



けの考えでつくるのではなく、市民が活発に意見や注文を出して、図書館を使う者の立場が計画に反映されなければならぬ。伊万里市は、「伊万里学」という学習運動の一環として図書館づくりを考えている。」こんな過激などころで「ぜんざい」のサービスを受けたのである。

●図書館づくり伊万里塾
「伊万里学」の一環として、伊万里市図書館づくりを市民と一緒に進めるために8回にわたって伊万里塾が開かれたということである。よく行われる図書館づくり懇談会や審議会というものではない。市民も含めて毎回50人ぐらいが集まった。司会役ももちろん設計を担当した寺田さん（横浜の俣山手総合計画研究所）も毎回参加した。この寺田さんも相当過激な人である。「図書館の設計は格闘技だ」というぐらいだ。犬塚さんの話だと、設計の人ともいろいろ議論をしたが、はじめはボンヤリ聞いていた。ところが「10年後、20年後の図書館としてのサービスをどう考えているのか。他を見に行ったりして『伊万里の図書館はこうありたい』という考えを出してもらわないと設計できない」という手紙をもらった。正に剛球を繰



左上：ぜんざいをいただいただけで、話を聞いたわけでもないが、おそらくこのにこやかな顔の面々が、「図書館づくりをすすめる会」や「図書館友の会」の会員であって、時には市役所へ図書館の予算をふやすよう頼みにいくプレッシャーグループだったり、「お話キャラバン」というボランティアだったりするのかな、と思いつつながらぜんざいを頬ばった。時々見るとお話を聞かずにぜんざいを頬ばる。聞かずにぜんざいを頬ばる。聞かずにぜんざいを頬ばる。
左下：中庭が豊かだ。ここでぜんざいをいただく。
右上：書架の間に「座り読み」の椅子がある。

り出したという感じだが、受ける方も受けとめる力があったということだと思う。

●第1回の塾の講師をした菅原さん（図書館計画施設研究所）もすばらしい人だったと思う。これらの一種過激な人々が、足を地につけて取り組んだのが伊万里市民図書館づくりだといえよう。

●見学や研究のための出張が多い
最近の公共団体の姿勢で問題なのは、「現地や現物を見て学ぶ」ということに対して評価が低いということである。逆に間出張費を計上して、それを分配してしまうというような不祥事も起こしている。ところが、設計者からハッパをかけられたこともあるかもしれないが、伊万里の「としはかん通信」を見ると、各地の図書館見学や研究集会に参加した記事が多い。その中に「図書館とは建物だけを意味しない。サービスのシステムをいう」とか「図書館は成長する機能である」などという、ギョッとする言葉があったりする。図書館とは正にソフトウェアなんだ、ハードではなく人々のシステムなんだという考え方が出ている。

建築概要

- 平成2年9月3日 庁議で伊万里中学校横の文化ゾーンに図書館建設を決定。
- 平成3年6月24日 新図書館基本計画を作成。
- // 11月29日 第1回図書館建設懇話会を開催。以降平成5年4月まで5回開催。
- 平成4年4月23日 第1回図書館建設委員会を開催。以降平成5年4月まで7回開催。
- 平成5年1月19日 基本設計に着手。
- // 6月26日 図書館づくり伊万里塾を開始。以降平成6年3月まで7回開催。
- // 11月10日 実施設計完了。
- 平成6年2月26日 建設工事に着手。(起工式)
- 平成7年3月30日 同上工事完了。
- // 4月5日 開館準備のため新館へ移転。
- // 7月7日 伊万里市民図書館落成式、8日開館。

施設概要

名称	伊万里市民図書館
位置	伊万里市立花町4110番地1
敷地面積	7,692.14㎡
建築面積	4,053.96㎡
延床面積	4,374.51㎡
構造	鉄筋コンクリート(一部鉄骨)平屋建、一部4階
総事業費	23億480万円
蔵書収容能力	30万冊(開架7万冊、閉架23万冊)
一般図書	60,000冊
児童図書	19,000冊
青少年図書	5,000冊
雑誌、新聞	280種、20紙
視聴覚観料	5,000点
(CD,LD,VTR,CT,絵画,おもちゃ)	

見学の極めつけが、市民と一緒にアメリカの図書館まで見に行ったことだろう。「グローバル伊万里海外研修推進事業」ということで、49歳までの市民を対象に、費用は無料で5人(と図書館員1人)を派遣している。図書館づくりのためにこれだけのことをやるというのは偉いと思う。

●計画から建設まで市民に情報公開

図書館づくり伊万里塾の活動を通して、建設のコンセプトづくりにまで市民が参加し、アメリカまで見学に出かけたということは既に述べた。それ以上に面白いのは、起工式のことである。考えてみると野暮ったい気もするが、建設地の地ならしをして、そこに白線で原寸平面図を描いて、そこで市民に設計内容の説明をした。建設前から1/200ぐらいの模型で説明していたとのことではあるが、起工式の時「敷地を歩いてぜんざい食べた」ことが「伊万里市民図書館の日」制度につながり、私のいただいた「ぜ



ブックエンドは伊万里焼きの器の加飾と、伊万里焼の「ぜんざい」につながっている。また建設途中にも「中間見学会」というのを行っている。まさに、図書館建設自体、まちづくり自体がソフトな活動となっている。

●「ぶっくん」と「お話キャラバン」「リクエストサービス」の活動。これこそサービス業の原点。「ぶっくん」というのは自動車でまわる図書館の出前サービスである。このように新しい図書館をつくるという意気込みの中で、受け身ではなく、図書館側から市民に近づいていくという姿勢はなかなかすごい。「お話キャラバン」はボランティアも参加して行う本の読みかせで、これにボランティアとして参加した人の感激した話は楽しい。結局、ボランティアというのは、それをする側の人の方が楽しいということである。

もうひとつ力を入れている「リクエストサービス」は、利用者が借りたいという本や資料がない場合でも対応するというシステムで、「図書に関するニーズには何でも対応する」という図書館の意気込みを示すものである。これが盛んなところほど活発な図書館だとされている。このことについても旧図書館の頃から取り組んでいて、佐賀県内の図書館、国会図書館、福岡の図書館、大阪府立中之島図書館などの協力を得て活動している。めったなことでは「そんな本はありません」と言うてはならないというのが、図書館のコンセプトになっている。

●図書館って、市民のためにいくら稼いでいるのか。国や地方公共団体の財政赤字の問題がやっと明るみに出だしたが、その途端に、節約が言われ出している。しかし図書館ではずっと以前から「図書館が日々市民のためにいくら『利益』をもたらしているか」という

ことが問題になっていたことを知った。これは伊万里市民図書館の先輩格の福岡県荳田町立図書館で行われていることである。

その方法は次の通りである。

$$a \times b - c = d \text{ (利益)}$$

a 年間貸出冊数

b 資料や本の単価 (全国平均)

c 図書館年間経費

これをさらにシビアに見るならば、cの年間経費に減価償却を入れるということになるだろうが、そこまでも考えなくてもよからう。原則的に言うと幼児の保育や高齢者の介護などといった問題以外の、市民にとって選択の余地のあるサービスについては運営経費ぐらゐは稼がねばならないと思う。上記の計算はそれとは別の考え方ではあるが、面白い試みである。

伊万里の図書館の活動にてらして考えてみると、「ぶっくん」の活動は「市民の足と時間の代行サービス」を含んでいるし、「お話キャラバン」は市民 (子供) に「遊びと教育」のサービスを行っている。もちろん「リクエスト」も特殊で困難なサービスの提供である。またレジャー、エンターテインメント、学習の場として図書館を活用していただいているというサービスも重要な要素である。荳田町立図書館の考え方は大変素晴らしいが、もう一步進んで、知的サービス業としての誇りに根ざした、費用・効果の検討もやっていただきたいように思う。この項は私の思いつきであるが、すでに行われているかもしれない。

今回の見学は目から鱗がおちる思いであった。犬塚さんの要を得た説明や案内で、図書館は言うに及ばず、公共施設全般のあり方についてもいろいろ学ぶことができ、非常にありがたかった。

〔追記〕荳田町立図書館について、伊万里図書館の残引きでは申し訳ないと思って、電話取材を試みた。電話に出られた園田館長さんに「図書館がいくら稼いでいるかという話について聞きたいんですが」と言いかけたら、即座に「うちの年商は18億円です」と返事が返ってきた。あとで送っていただいた「図書館だより」にも「図書館の年商は18億円！荳田町立図書館が皆さんに還元した金額です」と出ていた。この意味は総貸出冊数604,727冊×出版物の平均単価2,977円 (1996年) = 18億272千円ということである。聞いた話をもとにバランスシートを作ってみると以下の通りになる。

a 売り上げ 604千冊^{*1}×1800円^{*2}…1,087,200千円

^{*1}貸出冊数

^{*2}町立図書館の購入図書の平均単価

b 図書館費^{*3} ……112,172千円

^{*3}うち図書・資料費は約40,000千円

c 人件費等 ……47,198千円

d 営業利益 (a - b - c = d) ……927,830千円

この数字に減価償却費や修繕維持費などが含まれているかどうかは聞きもらした。最後に一言。どうも図書館業界には過激派が住み着いているようである。

(糸乗 貞喜)

第45回地域ゼミ報告

都市住民参加型の農地の多面的利用を！

バブル期に日本がリゾートブームにのっていたころ、農村と都市住民との交流を通した「田園型リゾート」を唱え、阿蘇で実践活動に取り組んでいる佐藤先生 (熊本大学教授、(財)阿蘇グリーンストック理事) と阿蘇グリーンストック運動の事業展開の代表者である久保田氏 (緑の資産代表取締役) を迎え、田園リゾートの最近の傾向や、阿蘇グリーンストックの取り組み状況などの話をいただいた。

当日は、このようなテーマに関心を抱いている人は多く、「最近、農民になった人」、「花卉栽培をやっている人」、「牧畜をやっている人」、「これから農地をもちたいと考えている人」など多彩な方々が参加し、講演後は実ににぎやかなデイズカサシヨンの場となった。佐藤先生のお話と当日いただいたメモの中から、これからの農地利用についてのポイントとなる事柄や実際の活動事例をあげてみたい。

●農地法に風穴をあけようではないか！

全国18%の食料供給基地である九州では、この10年間に耕地面積が25%も減少している。また、農業者が高齢化しているため農家だけに食物供給を期待するのは不可能である。飽食の今、国民に生存権として食物自給のための「直耕権」を保障する必要がある。北欧では「万人直耕権」があり、これがグリーン・ツウリズムのベースとなっている。

昨年、農地法50周年を迎えたが、どこのマスコミも取りあげなかった。今の農地法は本気で農業をやろう

とする人にも不満があるし、週末に農業をしたいという人（ウィークリーファーマー）や趣味で野菜を作りたい人（ホビーファーマー）の人にとっても不満なものとなっている。今こそ農地法に風穴をあけて、都市住民も農地を利用しやすい環境にする必要がある。

●今、農地付き住宅の事業化のとき！

高度成長期に大量に都会へ流出した青年たちが、リタイアを機に第2の人生をふるさとの「カントリー居住」や「リゾート居住」の実現を目指している人も多い。これらのマーケットに対して農村側もちゃんとした受け皿をつくる必要があるのではないかな。このような農地の多面的な利用が、荒廃農地を少なくして農地の保全や利活用につながる。

●小国町でツーリズム大学をつくる予定

九州のいろいろな農業の達人に先生になってもらい、農家民宿の経営のやり方、農作物の作り方、農村型レジャーのやり方などを勉強する大学をつくる予定である。もてなしの勉強は湯布院、阿蘇の乗馬などたくさんあり、九州はツーリズム大学の適地である。

この拠点を熊本県小国町につくることを考えており、小国町ではすでに予算化している。また、小国町を拠点として田舎情報のネットワークをつくるような仕掛けも考えている。

●99年間の農地利用権付き住宅を買いませんか

先生の考えを実現化する事業として、現在、「緑の資産」が事業主体となって、阿蘇ニューファームビレッジの一角約1.5haの用地に農地付き住宅の構想を立てている。この構想の具体的な内容のつめはこれからであるが、下記のような内容の事業化をイメージしている。関心のある方は、是非連絡してくれるように呼びかけている。（連絡先：緑の資産 TEL：096-326-1565、FAX：096-326-1635）

講演の後、約1時間近くにわたって参加者のいろいろな意見や感想が述べられた。その中で特に印象に残ったものをしては次のようなものがあげられる。

（最近、農民になった方）

・農民になるため、農業委員会に「どうして収益をあげるのか」と質問された。このとき「12ヶ月間、月に1回に実の生る木を植え、都市住民の方にリースする」と答えた。

・今は週末に農民となって働いている。

（農家の方）

阿蘇ニューファームビレッジのゾーン構成

- 田園ゾーン（ふれあい展示場）
- 農村集落ゾーン（共生村づくり）
- 拠点施設ゾーン
 - ・公共施設：テレワークセンター、親水公園
 - ・民間施設：ファインファクトリーパーク
 - 野島の森キャンプ場
 - 大学セミナーハウス
- 森林・草原ゾーン
 - ・野島の森・森林トラスト
 - ・赤牛の放牧と野生生物のサンクチュアリ

農地付き住宅事業の概ねの内容

- 都市住民向けコーポラティブ住宅の提供
 - ・集合住宅
 - ・一戸建て住宅
- 宅地＋農地利用権＋林地利用権
- 一部の農地は農事組合法人が所有したまま、農地トラストとして利用権を販売し、活用する考え方
- 一部の林地は財団として提携し、農地トラストによって保全する。

- ・農民になるためには集落に親しい仲介役を努めてくれる人が要る。農地所有者も知っている人からの紹介だと安心だ。農村には顔の見える人が来て欲しい。
- ・農家はどうしても保守的であり、都市の人の知恵や刺激が必要である。荒廃農地をどうにか保全したいと考えているため、都市住民の方を招いたイベントを行っている。このイベントの時には、本気で農業をやりたい人なのかどうか我々も何気なく見定めている。イベントは楽しくないと長続きしない。

（牧畜農家の方）

- ・牛を放牧し、手造りのアイスクリーム、乳搾りなど都市住民を受け入れる小さなグリーン・ツーリズムみたいなことをやりたいと思っている。しかし、資金手当のあてがない。資金をどうして集めるかの知恵が欲しい。

（将来農地をもちたい方）

- ・グリーン・ツーリズムは、今、農水省や建設省がいろいろな補助金を出すなど、一時期のリゾートブームのような感じがする。今後、グリーン・ツーリズムのやり方としては、ひとつは大手デベロッパーが面的にやるタイプと、地域の特徴と個人のニーズをつないだ小規模タイプの2通りの方法があるのではないかな。あとは消費者が、どちらを選択するかだ。

今後は、農地をもちたい人や農作物をつくりたい人が集まり、研究会や実践を通じて、まさにコーポラティブ方式などで事業化していく時期にきているのではないかなと思った。

（山田 龍雄）

地域計画のための一知半解事典⑦

九州はパチンコが盛ん?

パチンコ売上げに県民性というものが表現されていないかと思ってデータをあさっていた。九州は競輪・競

娯楽業（パチンコ）収入額と一人当たり県民所得の比較

	娯楽業 収入額 (10億円)	20歳以上 人口 (千人)	20歳以上 1人当たり収入額 (円/人)	県民所得 (10億円)	20歳以上 1人当たり県民所得 (円/人)	1人当たり収入額/ 1人当たり県民所得
	a	b	c=a/b	d	e=d/b	f=c/e
北海道	1,556	4,156	374.3	14,174	3,410	0.110
青森県	327	1,082	302.3	3,203	2,960	0.102
岩手県	314	1,048	299.4	3,113	2,971	0.101
宮城県	627	1,622	386.7	5,697	3,513	0.110
秋田県	289	928	311.1	2,822	3,039	0.102
山形県	366	942	388.7	2,956	3,139	0.124
福島県	601	1,531	392.6	5,411	3,536	0.111
茨城県	863	2,048	421.3	8,003	3,907	0.108
栃木県	611	1,401	436.1	5,719	4,083	0.107
群馬県	628	1,440	436.3	5,506	3,824	0.114
埼玉県	1,783	4,593	388.3	19,276	4,197	0.093
千葉県	1,895	4,012	472.3	17,131	4,270	0.111
東京都	4,760	9,086	523.9	52,955	5,828	0.090
神奈川県	2,106	5,891	357.5	25,453	4,321	0.083
新潟県	740	1,835	403.2	6,329	3,450	0.117
富山県	320	836	383.2	3,125	3,739	0.102
石川県	309	850	363.6	3,210	3,775	0.096
福井県	250	607	412.8	2,124	3,500	0.118
山梨県	264	631	418.4	2,308	3,656	0.114
長野県	570	1,608	354.4	6,042	3,758	0.094
岐阜県	658	1,505	437.5	5,600	3,721	0.118
静岡県	1,065	2,690	395.9	11,183	4,157	0.095
愛知県	2,737	4,845	564.9	21,690	4,476	0.126
三重県	625	1,320	473.5	4,991	3,781	0.125
滋賀県	341	871	391.3	3,581	4,113	0.095
京都府	781	1,916	407.8	7,272	3,795	0.107
大阪府	3,396	6,420	529.0	29,247	4,555	0.116
兵庫県	1,426	3,951	360.9	15,195	3,846	0.094
奈良県	185	996	185.6	3,371	3,384	0.055
和歌山県	177	801	221.3	2,406	3,004	0.074
鳥取県	174	454	382.2	1,438	3,166	0.121
島根県	189	584	323.4	1,720	2,946	0.110
岡山県	427	1,417	301.5	5,179	3,654	0.083
広島県	849	2,086	407.1	8,267	3,964	0.103
山口県	544	1,174	463.2	3,839	3,270	0.142
徳島県	245	621	393.8	2,036	3,278	0.120
香川県	256	760	337.4	2,749	3,617	0.093
愛媛県	596	1,121	531.4	3,418	3,049	0.174
高知県	271	620	437.1	1,787	2,881	0.152
福岡県	1,513	3,494	433.1	12,790	3,661	0.118
佐賀県	221	636	347.5	1,971	3,102	0.112
長崎県	651	1,129	576.3	3,382	2,994	0.192
熊本県	694	1,353	513.0	4,502	3,327	0.154
大分県	394	914	431.0	2,906	3,180	0.136
宮崎県	424	844	502.9	2,569	3,044	0.165
鹿児島県	709	1,315	539.5	3,870	2,943	0.183
沖縄県	188	809	233.0	2,447	3,024	0.077
全国	38,916	90,791	428.6	363,959	4,009	0.107

資料：平成2年国勢調査、平成2年国勢調査人口

平成2年度1人当たり県民所得（平成5年度県民経済計算年報）

（単位：円）

艇・競馬も多いと言われているので、考えついたのである。

新宿区の統計局にいくと「サービス業基本調査」の小分類をコピーさせてくれるので、九州各県のものをコピーしてきた。しかし全国との比較となると、47都道府県のコピーをとってきてインプットしなければならぬ。これは大変なのであきらめた。したがって今回のデータは、娯楽業という中分類で行っている。この娯楽業の事業収入は全国で38兆円であり、うち30兆円がパチンコだから、一応パチンコの比較に使ってもそれほどの乖離はないと考えている。ちなみに福岡県でみると、中分類の娯楽業の事業収入は1兆3千億円となっている。

表で示しているように、九州各県はなかなかの成績である。なぜか奈良県が少ない。（糸乗 貞喜）

市街地の中の自立した家

甘木の環境共生型住宅

先程の環境共生住宅シンポジウムに関連して、個人で取り組まれている、とある環境共生型住宅を取材したので紹介したい。

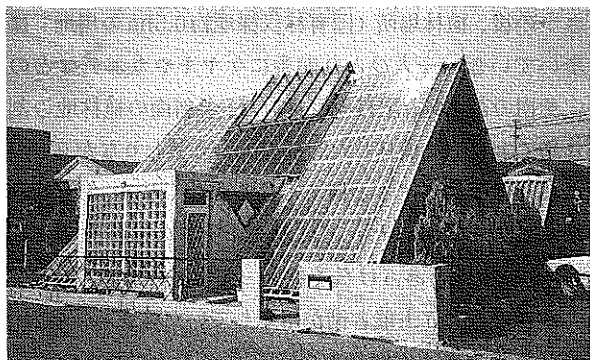
●太陽光熱と井戸水で暖房と“涼房”

福岡市から車で1時間ほどのところにある甘木市の中心部に、「あれ、家やろうか？」と思うような三角のテント型の小さな（と感ずる）建物がある。所在地の甘木市来春330番地にちなみ「HARU+330」と名付けられたこの建物は、建築家倉掛隆氏自身の設計による自宅兼事務所である。

2年前に市が歴史資料館の駐車場用地として一帯の土地を買い上げたのをきっかけに、その駐車場に面した土地に住宅を建てることにした。そのときに以前から暖めていた省エネ、自足型住宅の実践に踏み切った。

住宅の特長、性能は次のようなものである。

- ・構造は蓄熱のことを考え、1階は鉄筋コンクリート造としている。2階は鉄骨造。
- ・太陽光発電によって、暖涼房システム循環ポンプ動力、DC-ACインバーターシステムと、その余剰備蓄電力による室内照明を行っている。
- ・暖房システムは太陽熱温水循環による床面暖房。配管用鋼管を屋根面に並べ、黒く塗って集熱。太陽光



全景。南向きの屋根面に太陽電池(中央)と集熱パイプを設置

発電動力ポンプで床面に温水を循環させる。

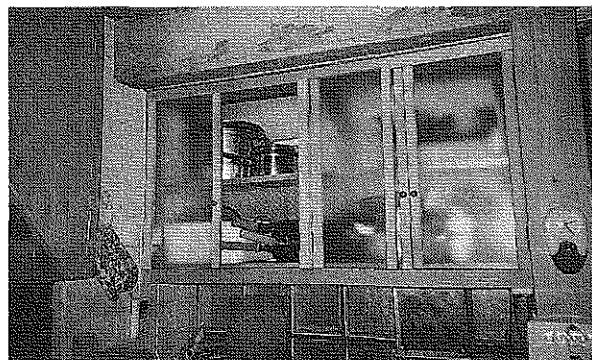
- ・涼房システム(冷房まではいかない)は、地下水を活用したスラブ冷却涼房。井戸の中に冷却コイルを入れ、井戸水で冷やされた水をポンプで壁、天井内に循環させる。
- ・生活排水処理については、雨水以外の敷地外排水をしない。温室発酵土壌によって風呂、洗濯などの全ての生活排水及びトイレ汚水を土壌濾過処理。これによって蔬菜栽培(敷地内にハウスがあり、キュウリ、ナスなどを作っている)を行い、余剰水は空中蒸散させる。
- ・水道はひいておらず井戸水のみを使用し、水の循環は敷地内で完結している。
- ・敷地に陰ができないよう、家の形状を三角にしている。(さっきテント型と書いたが、本人によれば堅穴式住居のイメージ)
- ・資材のリサイクル等までは行っていないが、コンクリート、木材などは既存のごく普通のもを活用し、特別なものは使っていない。

室温などのデータは、熊本大学の研究室にお願いしてとっている。

●処理可能な水の量で生活

小さな工夫や、生活面での対応などもいくつかみられる。

- ・暖炉を取り付け、廃材などを燃やして暖をとる。
- ・食器乾燥棚の壁面側(つまり奥)をすりガラスにしており、太陽熱で乾燥させる。壁は東向き。殺菌効果もあると思われる。
- ・生ゴミ処理などにはEM菌を利用。また、灰を洗剤として利用している。
- ・東側の壁面には、夏は朝顔がはって日影になるよう棚が付けられている。



太陽熱で乾かす自然食器乾燥棚

・水は処理可能な範囲での生活を行うため、風呂はシャワーのみ使用など、環境側からの生活面の制約もある。

●災害に強い住宅でもある

そのほかの課題や倉掛氏のこだわりも含め、いろいろな話を聞くことができた。

- ・太陽電池は今1W用で1000円と高い。これがひとつ300円になれば家庭の電力全てをまかなえる。
- ・数年前の台風災害のとき、ライフラインが止まり、最低限の生活は自分でできないといけなかったと思った。もし今災害が来ても、この家は生活できる。
- ・都市基盤から生活が自立できれば、都市に住まなくても良くなる。井戸さえあれば、こういうシステムでもどこにでも住めるようになる。
- ・建設コスト2,800万円。安く上げるため、割栗石を数多くなど自分でできるところは自分でつくった。

生活面での制約も出てくるので、人にはまだ勧めにくいらしい。

この家を少し離れてみると、市街地の中に独立した空間があるようにも感じた。それは景観的に浮いてるといったものではなく、自立しているというイメージから来るものようだ。(伊藤 聡)

参加者が多く、あっけなく終わった植林作業

「遠賀川源流の森づくり」のボランティア参加

「ボランティア」の意味合いのひとつに「好きなことをする」というものがある。今回、私は好きなことというより『植樹ボランティアとはどんなものなのか、どんな雰囲気なのか』といった半分、好奇心のもとに小学校6年生の息子共々参加した。



ボランティアを
乗せた大型バス
(2台)



植林風景

この植樹ボランティアは、遠賀川の源流がある嘉穂町の有志の方々が、昨年度から「町づくり委員会」の中で議論しつづけ、町づくりの大きなテーマとなった「水源の森づくり」の具体的な行動の一環として取り組んだものである。

当日3月9日の9時に役場前の駐車場に集合すると、すぐ引率担当の方が「山田さん、こちらのバスに乗ってください。」と言われ、そそくさとバスに乗って、バスに揺られること約10～15分ぐらいで、小石原村との境界になっている嘉麻峠の民芸品売場兼休憩所の駐車場に到着した。

開会式まで40～50分あるにも係わらず、すでにボランティアの方を乗せた大型バス2台が到着していた。これは遠賀川下流域にある芦屋町が町長を筆頭に町ぐるみで来ているとのことであった。

当日は500人以上の参加者があり、基金の方も当初目標であった50万円を大きく上回り、約260万円も集まったそうだ。私は、当日かなり多くの参加者があるとは聞いていたものの、あまりの参加者の多さに圧倒されると同時に、このような環境ボランティアに対する意識の高さに驚かされた。

知り合いの主催者の人に聞くと、「本当はこそっとやりたかったのですけどね……」と嬉しい悲鳴をあげていた。

とにかく、当日は町の一大イベントとなっており、ボランティアを受け入れる側の準備はさぞや大変であつたろうと思った。

いざ、開会時間になると嘉穂町長以下関係者のあい

さつの後、植林場所（国有林伐採地約0.5haの用地）に歩いていき、一人ひとり順番にケヤキやカエデなどの広葉樹の苗4本と肥料を受け取り、急斜面の植林地の割り当てエリアで植林した。係の人から教わりながら、のんびりと植林していると植える場所がなくなり、1本は返却することになった。とにかく、実質の植林作業時間は10分程度とあっけなく終わってしまった。

植林の後は、主催者側が用意していた休憩所で豚汁、かしわ飯、あんこ餅をたらふく食べさせてもらい、まだ肌寒さが残る日差しを浴びながら、なにかしらすがすがしい気分になることができた半日の体験であった。参加した私たちの実質の作業時間は短いものではあったが、私は嘉麻峠を通る度に植林した木々がどの程度育っているのか気にかけて足をとめることになりそうだ。

なお、8月24日（日）には「第1回下草刈り」があるとのこと、これにも是非息子共々参加したいと思っている。

中高年女性に大人気

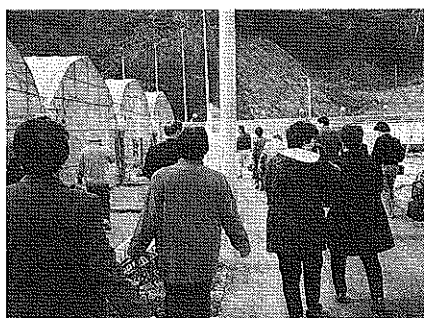
トマト狩り日帰りバスツアーに参加

福岡県山田市の特産品開発を手伝っていることもあり（それを口実に？）、西鉄旅行が主催する長崎県大島町のトマト狩りのバスハイクに参加した。

このツアーはテレビで紹介されたことがあるそうで人気商品となっているとのことだった。私が参加した日のツアー客は30名程度、中高年層の女性グループ、夫婦、親子（中年＋高年）という顔ぶれであった。

コースは福岡市から佐世保市へ、西海橋を渡って船で大島に向かうというもので、途中、西海橋の近くの土産品店に立ち寄り、手厚いもてなし（入り口には歓迎〇〇ツアー御一行様の立て札、入店するといらっしゃいませのかけ声があちこちから聞こえてくる）を受け、これぞツアー旅行だ、という気分を味わいながら大島へと向かった。

大島に着くと、まず食事のため、大島町と大島造船の第3セクターが経営している大島アイランドリゾートホテルへ向かった。ホテルに着き、広い宴会場に入ると席には〇〇様と名札があり、1人用の鍋物、食べきれない品数、ここでもこれぞツアー旅行だ、という気分を楽しんだ。



トマト狩りに参加した人たち

その後、ホテルと同じ大島町と大島造船の第三セクターが運営している大島トマト農園でトマト狩りをした。ごこのトマトは前号紹介した水切り栽培によるもので家に持って帰って食べたが、酸味、甘みが強く、肉質は固く、おいしかった。ツアー客のトマト狩りの反応であるが、「昼食後にトマト狩りなんて、トマトが食べられないじゃないか（園内食べ放題）。」と不満もでていたが、それなりに楽しんでいるようにみえた。私はというとお腹いっぱいにも関わらず小さくておいしそうなトマトを探しだし、かぶりついていた。

トマト狩りの後は、これまた第三セクターで経営している大島酒造を見学した。ここでは、焼酎の醸造過程を詳しく説明してくれ、樽の中も見せてくれた。営業熱心という訳でもなかったが、ここでしか買えないという酒を何万円分も買い自宅に送るように頼んでいる人もいた。お金も暇もある、中高年の女性と高年の男性は本当にいいお客さんだなと感心しながら、私は一番安いジュースを買った。

酒造見学でスケジュールは終わりであったが、船の時間の都合で大島造船所の中を見ることができた。造船見学は好評で、ツアー客は興味津々に質問をしたり、じきりに写真を撮ったりしていた。中には造船所見学が一番よかったという人もいた。そういえば小学生の頃、社会見学で普段滅多に入ることのできないお菓子工場を見学し、楽しかった思い出がある。造船所見学は、まさしく小学生の頃経験した社会見学だった。

今回の旅（日帰りではあるが）がツアーと名の付く初めての旅（修学旅行は除いて）であったが、この中からもう1度大島を訪れるリピーターが何人いるのだろうかと思った。

この旅行は、西鉄旅行が大島造船のタイアップで1万円未満という低料金で沢山食べて（全てがおいしかったとは言い難い）、トマト狩り、大島酒造見学などが実現しており、楽しかったが、私は大島へ「また行って

みよう」とは思わなかった。

今回の旅行の説明に加え、大島の他の魅力的なところや、おいしいものを食べさせてくれる食堂、泊まるならこんな安いところもありますという情報のオプションをつけてくれると、今回行けなくて残念だという気持ちと、もう1度行ってみようかなという気持ちが起こり、「また行きたい」と思ったのではないだろうか。

トマト狩りが、中高年層の一過性のブームで終わらないことを願うのだが……。

（七搦かおり、澤谷真紀子）

三内丸山を訪ねて

3月中頃に青森市の三内丸山遺跡を見てきた。青森に到着した時には、雪が降っており、空港から乗ったタクシーの運転手は、この時期には遺跡は公開されていないのではないかと断っていたが、前もって青森のプランニングネットワーク東北の上村氏に「遺跡は公開されているが案内するボランティアガイドは居ない」ということを確かめていた。

空港到着時には雪が舞っていたのだが、空港から15分かけて遺跡についた頃には、天気は回復し、雪は残っているものの遺跡の全景を見ることができた。

●野球場建設を止めて保存・活用

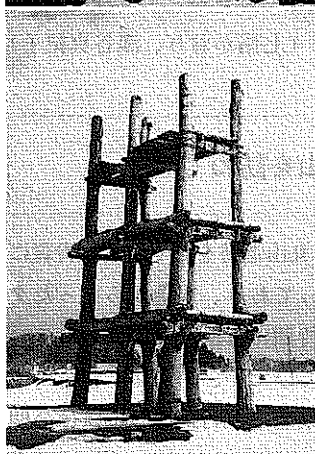
遺跡のある場所は、JR青森駅から南西へ約3kmのところにあり、青森駅前から市営バスも出ているところである。遺跡はそれほど高くはない丘陵地にあり、この地区全体を県の総合運動公園をつくらうとして発見されたものである。野球場の建設のための文化財調査によって、1500年以上にわたる縄文集落の遺跡であることが判明し、平成6年に保存・活用が決定され、現在は総合運動公園の一角の遺跡ゾーンとして一般に公開されている。

この遺跡ゾーンの広さは38ha、発掘された状態を保存して、その上にドームや屋根が架けられ、一般見学ができるようになっている。

まだ雪は残っていたが、見学通路になる部分だけは除雪されていた。運転手さんが言っていたようにこの時期は誰も居ないだろうと思っていたが、天気が良くなったこともあってか、家族連れなどの姿もちらほらと見られた（写真1）。



上) 写真1 :
雪景色の三内丸山遺跡



左) 写真2 :
6本の巨大柱跡を復元

この遺跡で特に有名なのは、6本の巨大柱の跡である。柱が何に使われていたものかの復元にあたっては、建物だったのかそうでないのか、防衛のための物見の塔とか、祭祀のためシンボルとかいろいろな説が出されたようである。現在の姿は、建物説に立った復元の姿だそうである(写真2)。

● 1500年間の定住を支えた知恵

この遺跡地区には、縄文時代の1500年にわたって定住していたと思われる証拠が残っており、どうやって生活していたのかというのが注目を浴びている。500人近い人々が何を食べて暮らしていたのか、それなりの食料調達方法があったようである。発掘によると、「クリ」林を集落周辺に人為的に形成していたり、また「ヒエ」などの雑穀を栽培していたり、さらに陸上の小動物の骨や、近海の魚だけでなく外洋性の魚種の骨も見つかっていることなどから、物々交換も行われていたのではないかなど、いろいろな調達方法が推定されている。

● 縄文と弥生

一方九州には、弥生時代の環濠集落で有名な「吉野ヶ里遺跡」があるが、こちらは紀元前1世紀から紀元後2世紀くらいにかけて内外の環濠が完備された約25ha

の遺跡地区である。ここは、伝来した稲作によって定住社会が形成されたと言われる。

もう一つの興味は、縄文人と弥生人の違いである。三内丸山遺跡の「縄文まほろば博」のガイドブックにも記載されているが、弥生時代の九州にはまったく違う2種類の人々が住んでいたと言われ、大陸からの渡来民が九州北部を中心にやってきている。これらの人々が縄文人と異なる骨格をもっており、これらの人々がなぜ日本にやってきたのか、どうして縄文人と弥生人は違った顔をしているのかなど興味は尽きない。

最後に、三内丸山遺跡の保存・活用には、地域内外の人々の多くの賛同と協力が存在し、冒頭に述べた案内のボランティアをはじめ、発掘から活用まで多くの人々が関わっている。数年前に青森に行ったときに見た遺跡案内のビデオでは、これらボランティアの人々の活躍が多数紹介されていた。歴史的な資源で活性化しようという動きは全国各地にあるが、マンパワーの素晴らしさを感じた次第である。――(山辺 真一)

所員近況

■一寸、自慢ばなし

アンコールワットで、拓本を買ってきました。20年ぐらゐも前のことだが、兄がネパールから薄っぺらな紙に仏像を印刷したものを何枚か買ってきて、親戚などに配っていた。老父はそれを大変有り難がっていた。

これも20年近く前のごとだが、中国蘇州の寒山寺の入口でだったか、極めて素朴な数珠を買ってきた。少し朱味がかかった肌色の木の珠に穴をあけて糸を通しただけのものだが、非常に良い匂いががする。これは私のもので、今でも匂いは続いているし、愛用している。

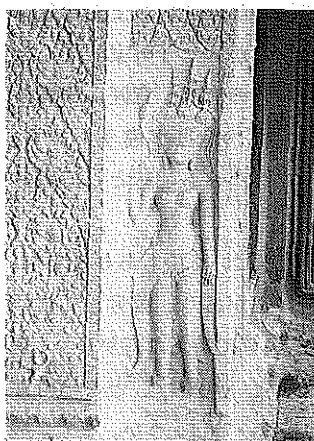
ネパールの仏像は、おそらく100円ぐらゐだったのではないと思うが、兄は亡くなったのでわからない。数珠は100円か10円だったと思うが、値段は別として、今でも芳香を与えてくれている。

アンコールワットにいったら、何か仏像の絵などを買って来たいというのが、行く前からの「思い」であった。拓本を売っているということは、はっきりわかっていただけていない。しかし現地ですぐのことを聞いたので、何とかして買いたいと思った。

私の乗る観光バスに、皆が集合するまで少し間があったので、アンコールワットの正面の土産物屋が4〜5軒あるところに近づいていった。どう言って尋ねたらいいかわからないので、「ピクチャー？」といったら、絵はがきの方へ連れていこうとした。「オーノー、ラージ」といって、手まねで70〜80センチ四角ぐらいの大きさを示してみせた。と同時に3〜4人の声で、「タクホン、コッチ、チョットマツテ」とはね返ってきた。私は一瞬呆気にとられた。

私が日本人だということなどは、店のオバサン達は（若い娘もいた）一瞬のうちに見抜いている様子であった。ひょっとして「拓本をとる」というようなことは、日本人が技術を教えたのではないかという気がした。ここからは普通の商取引になる。

写真にもとづいて説明すると、私が手に持っている女神像は、柱についている彫刻の拓本で（写真を見ていただきたい）、拓本も凸凹がはげしく、オッパイのところなどは盛り上がっている。これは10\$だといった。



左：柱に彫られた女神像

下：アンコールワットで購入した拓本
手に持っているのが
言い値10\$のもの



写真の額に入ったものと、上の船をこいでいるものは同じ大きさで全部で5枚あったのだが（これはバンコクで2枚減ってしまった）、たしか7〜8\$だと言ったと思う。小さいのが2枚あるが、それは2〜3\$だったかと思う。わが商談は5〜6分だったが、結局8枚で25\$ということになった。

後の祭であるが、小さいのをもっとたくさん買えばよかった……と思っている。そうではなかったので、配るほどはないのである。

駄足を加えると、一番安い額を買ったのだが、1ヶ15,000円した。したがって写真は、額とその中のレリーフを合算すると運送費（私の旅行費用）別の実費価格は15,350円ほどになっている。（糸乗 貞喜）

西都原古墳公園に咲く「山ツツジ」に感激！

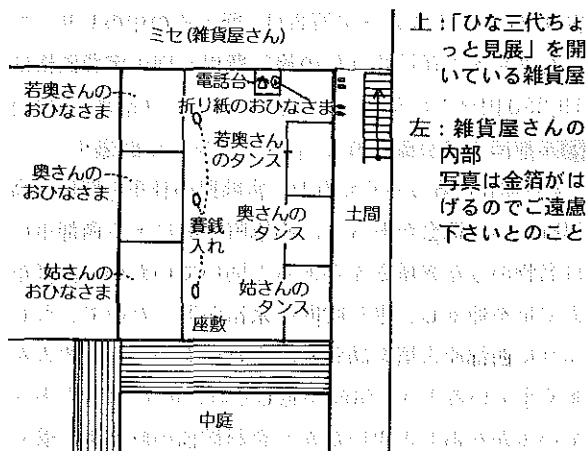
4月初旬の春うららかな日、宮崎県の仕事の関係で高鍋町に行く機会があった。高鍋町の隣にある西都市には名物のうなぎ屋さんがあると聞いていたので西都市まで足を伸ばし、少し時間の余裕があったので、久しぶりに西都原古墳を訪れた。平日にもかかわらず人が多く来ているような気配が感じられたので、「何かあっているかなあ」と思いながら資料館前の駐車場に着くと、目の真ん前に「春爛漫」があったのである。そこには資料館前の小高い丘の傾斜面一帯に「山ツツジ」が咲き乱れており、一面に飾られた赤に近いピンク色に酔いしれてしまった。和服姿の美人がいたら、是非写真におさめたいという変な衝動にもかられてしまった。4月の初旬に西都市の方に行く機会がありましたら、一見の程お勧めします。

なお、評判のうなぎ屋さん「入船」に着くと、なんと大型バスも止まっており、西都市でも最高の観光スポットであることがわかった。味の方はといえば、蒲焼きはそれなりに美味しい。どちらかというと味噌たれで食べる「白焼きうなぎ」の方があっさりしていて、なかなかのものであった。（山田 龍雄）

センスが光るおひなさま〜日田のおひなまつり〜

よかネットでは以前紹介している日田市の豆田に行ってきました。白壁の町並みが美しいところで、酒屋さんやスーパーマーケット、羊羹屋さん（すぐ売り切れる。この時も15:00頃には完売）のような、昔ながらのお店や新しいお店などが営まれ、生活感あふれるところが気に入っています。

私が訪ねた3月には（それを目当てに行ったのだが）



おひなさまが町中の至るところに飾られ、多くの観光客を引き込んでいる「おひなまつり」の最中でした。特に印象に残ったおひなさまは、豆田の端の川に近い所の雑貨屋さんのものです。

雑貨屋さんのミセの間の奥、土間を行った右手の座敷には、入り口から、その若奥さん、奥さん、姉さんの三代のおひなさま（嫁入り道具と思われる）が並べられ、対面の壁側には同じく嫁入り道具と思われる三代のダンスが並べられていました。この家の愛着のあるものを大切にしている姿をかいま見たようで、暖かい気持ちになりました。

三代のおひなさまは、昭和のもので古いとは言えませんが、お祭りなどの時に一般の人が自宅の宝物や自慢したいものを、その家のセンスで並べられている点は京都の祇園祭りと同じだなと思いました。

そういえば、日田市は7月の終わりに山鉾が町を巡行する祇園祭があり、日田の萩尾稲荷神社は京都の伏見稲荷の分社とのことです。（澤谷 真紀子）

■「嫌い」は「好き」の素

大阪を飛びだし、福岡に来て、早いもので6年が過ぎました。福岡でのまず初めの生活拠点は大学附属寮で

した。福岡での暮らしに慣れるまでここにおいて、1ヶ月くらいいたらアパートでも探そうと思っていました。ところが寮はとても居心地が良く、結局、学部の中の4年間過ごすことになりました。福岡に来た頃は、大学は福岡でも就職は地元（大阪）に戻る予定でした。しかし、いつの間にか福岡が好きになってしまい福岡で就職しようと決めました。そんな福岡で大学院の研究を通して夢中になっていたのが町家の研究（研究というより趣味です）でした。所属していた研究室が主として3次元CGを用いて、歴史的な町並みの景観管理計画の研究を進めていたのですが、当時、最も興味があったのは3次元CGであり、歴史的なものには、ほとんど興味がありませんでした。それでもゼミの度にあまり気の進まない歴史的な町並みに関するレポートを書いていました。

福岡に在住することにも同じことがいえるのですが、しばらく我慢してがんばってやってみよう、と思ったことに限って、いつのまにか好きになってしまい、自分とは切っても切れない関係になっているような気がします。なかなか好きになれなかった「町家」でしたが、今では、特に、町家の外観の形態、意匠に興味があります。地域によって少しずつ意匠が違ふんです。町家研究は奥が深いです。これからも趣味として続けていきたいと思っています。

福岡近辺には歴史的な町並みはいくつもありますが、後継者問題や維持費の問題などがあり、苦勞して古い町家を残していくよりは新しく建て替えた方が安く、快適な生活を送ることができるというのは、どこの町並みでもいわれていることではないでしょうか。また、残そうとは思っても、どう活用していいかわからず結局、空家になっているものも見かけます。歴史的な町並みは常に様々な問題と隣り合わせですが、少しでも快適な住環境、また行きたくなるような町並み景観づくりに携わることができたらいいなと考えています。

（小田 好一）

■シャーロックアンに聞いたロンドンと江戸の話

5年程前、とりつかれたようにシャーロック・ホームズの本を読み続け、1年かけて全刊読破した。新潮文庫の刊行順に読んでいたのだが、途中で「全刊読み終えたら年表をつかって、事件順に読み直したらおもしろいだろうな」と思っていた。こんなことを思うのは私だけではなかったらしく、世界各国にシャーロック

アンと呼ばれる人たちがいて、すでに年表どころか、ホームズの誕生日、趣味、ワトソンの女性遍歴など、ホームズに魅力を感じない人にとっては、ばかばかしいとも思えるような研究がなされているのである。

去る5月14日に、日本シャーロッキアン協会の一員である清水武彦さんに「シャーロック・ホームズのロンドンと池波正太郎の江戸」というテーマでお話を聞くことができたので、簡単にご紹介したい。

- ・ホームズが住んでいたのは、ベーカーズトリート221Bというところだが、1880年頃当時は実在しなかった。現在の221Bには不動産金融会社があり、ここには世界各地から届くホームズ宛のファンレターに返事を出すため、専用秘書がいる。
- ・ホームズは架空の人物であるが、祖父のお姉さんはヴェルネという画家で実在しており、ロンドンの博物館に作品が展示してある。架空のものど現実のものが混在しているのも魅力の一つ。
- ・江戸とロンドンと同じ頃に大火にあって(江戸1657

年、ロンドン1666年)、その後現在のような都市計画がなされている。

- ・18世紀の後半の江戸は八百八町というが、実際は1678ヶ町あった。うち、武家地が約7割を占め、全体で130万人くらいが住んでいた。同じ頃のロンドンは、人口85万人だが、ホームズの活躍した19世紀には450万人に増えている。
- ・1666年の大火でロンドンの中心地シティが壊滅した。ここはもともと商工業者のギルドの街だったが、復興しても戻って来なかった。その後、産業革命により都市型工場地となり、現在の金融機関などの中心地へと変化していった。
- ・ロンドンに、ホームズをテーマにした一つのテーマパークとも言える。
- ・清水さんの話を伺って、今度ロンドンへ行くときは是非ホームズゆかりの地を散策して、何か新しい発見をしてみたいと思っている。

（歌丸 星子）

「カンフル剤ばかりで、基礎体力づくりとならない産業政策を行っているか」

- ・「近隣の都市の影響で、何年くらいまで住宅需要が続くのか、その後はどうなるのか」
- ・「お年寄りが安心して住み続けることができる地域とはどんなところか、福祉施策だけで良いのか」

なお、このデータ指標は5月下旬に完成する予定です。興味のある方は、当方までお問い合わせ下さい。

（所員一同）

“農村と都市の人々が仲良くする会”が発足します

◎「未来は現在の結果だ」という話があります。現在57歳が中心となっている農業就業者が、20年経つと77歳になります。ところが、現在77歳の人たちはほとんどリタイアしています。もし新しい人たちが農村に住み着かないと、農村は今の半分とか2/3とかに人口が減るかもしれません。

◎この点が、農村に住む人には心配で、都市に住む人には付け目なのです。つまり農村の人は「少々だらし

地域データ指標作成のお知らせ

病気になった時、病院では、お医者さんに所見をしてもらって、処方箋をいただいて……というサービスをしてもらえます。同じように、地域の健康状態をみるのに何か分かりやすい診断はできないか、ということ常々考えて、処方箋の準備をするのが私たちシンクタンクの役割だろうと思います。

そこで、私たちが日頃仕事で行って、その地域の人口や産業、住宅や所得など、いくつか気になってきた点をベースに「地域の健康診断のようなもの」をつくることにしました。これからの地域づくりの処方箋として、お役に立てれば幸いです。

【地域の健康診断の例】

- ・「人口構造からみて、あと何年経ったら地域全体が老化するのか、そのための必要な対策は何か」
- ・「地域を経営していくための、安定的な人口構造はどのような姿か」
- ・「これからの地域のメシの種は何か、これまで何で食ってきたのか、今何で食っているのか」
- ・「地域の基礎体力づくりを支える若者は、何を望んで

第5回よかネットパーティのお知らせ

日本各地の美味しい特産品を食べながら、人と人との交流の輪づくりを目的として開催している“よかネットパーティ”も今回で5回目となりました。今年は山笠の祭で知られる福岡市博多区の櫛田神社境内の恵比寿会館をお借りして開催します。今回は皆様の参加型パーティで、より楽しい会にしたいと思いますので、是非ご参加ください。

近所には博多町屋、川端商店街、キャナルシティや櫛田神社の歴史資料館もあります。早めどうぞ。

日 時：平成9年5月24日（土曜日）

15：00～18：00

場 所：櫛田神社境内 恵比寿会館

詳細は同封の案内をご覧ください。

がない奴でも仲間に入れてやろうか」と思い、都市の人は「行儀良くするから環境の良い農村に住まわしてよ」となるのかもしれませんが。

◎これを一口でいうと、「いきなり10農（10割農業）はしんどいから、2農8サラ程度で農村に住みたい、まずは農村と仲良くしたい」となり、農村側では「少々たよりないヤツらでも、一緒に住む仲間が増えた方が活力アップになるかな」という考え方です。

◎かくして、（仮称）「2農8サラ」の会がスタートしかけています（4月24日発足予定）。御関心のある方は、当社の糸乘貞喜か尾崎正利あてに、TELでもFAXでも何でもお尋ね下さい。これは事務所の仕事ではなく、糸乘と尾崎の2人が事務所を借りて行っているものです。

（糸乘貞喜、尾崎正利）

“キャナルシティの1年間と博多のまちづくり”

「（仮称）九州まちづくり会」第一回会合のお知らせ

キャナルシティの事業化を中心になって進めて来られた、FJ都市開発㈱の藤賢一社長の報告を中心に、川端商店街の人々の意見を含めて意見交換会を行います。内容はキャナルシティの計画及び実績と、この1年間の周辺商店街の変化についてです。

場所：上川端商店街の中のプラザ川端（空き店舗を商店街で共同活用しているスペース）

日時：5月29日（木）18：00～20：30（予定）

報告：藤社長、商店街の人、会員及び当日参加者

主催：（仮称）「九州まちづくり会」…都市と農村を含めて、将来のまちづくりを考える人々の集まり。

文化・経済・都市問題・高齢社会・農村の活性化など、専門にとらわれない考えで進めようとしています。特に女性の参加を望んでいます。

参加費：缶ビール代含めて1,000円程度の予定

編集後記

■また“よかネットパーティ”の季節が来てしまいました。もともと10周年ということで、私たちの知っている方に応援していただいて「うまいものパーティ」をやってみようということで始めました。10年か5年ごとにと考えていたのですが、「えっ、毎年やるんじゃないの」というキビシイおだてに乗って続けることになってしまいました。結果今年は第5回です。

■有り難いことに、いつもいつもおだてていただいて、楽しく続けることができました。先日旧友と会ったとき、「長崎のアゴは全国区になりましたねえ」と言われました。第1回の頃はそれほど博多の街にも出ていなかったのが、そうなるとうれしい気もします。

■今年は関西方面から、「いつやるの?」と聞かれました。皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。 (い)

よかネット NO.27 1997.5

（編集・発行）

㈱九州地域計画研究所

〒810 福岡市中央区天神1-15-35 ホンダハビエ5F

TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

（ネットワーク会社）

㈱地域計画建築研究所

本社 京都事務所

TEL 075-221-5132

大阪事務所

TEL 06-942-5732

名古屋事務所

TEL 052-962-1224

東京事務所

TEL 03-3226-9130